

第 5 次 将 来 構 想 計 画

前期事業計画総括

安全・安心を**実感**できるまち ~ともにつくる~

2023 ➡ 2025

1 地域の防火・防災力



2 強い消防防災体制



3 安心の救急医療体制



4 スマートな消防



5 魅力あふれる職場



枚方寝屋川消防組合

第5次将来構想計画 前期事業計画総括

目的

令和5年度から7年度までの3年間の前期事業計画の事業成果を評価することで、本消防組合の今後の効率的・効果的な消防行政運営につなげることを目的とします。

評価方法

重要業績指標（KPI）に基づく定量分析と事業担当課へのヒアリングによる定性分析を併用して、前期事業計画の各事業の取り組みに対する評価を実施しました。特に、基本目標KPIへの寄与度を重視し、多角的な視点から総合的に判定しました。

評価の判定要素

- ① 基本目標KPI
- ② 前期事業KPI
- ③ 事務事業KPI
- ④ 前期事業計画の主な成果
- ⑤ ヒアリングでの事業課題等

評価項目

- A：十分成果をあげている
B：概ね成果はあげている
C：思ったほど成果が上がっていない
D：成果があがっていない

全体まとめ

基本目標	事業	評価
【基本目標1】 市民・事業所の 防火・防災意識 の高揚と 自助・共助 の醸成	地域防災力の強化	B
	住宅防火安全対策	B
	防火対象物の安全対策	A
	危険物施設の自主保安体制構築	A
【基本目標2】 あらゆる災害から市民を守るための 消防防災体制 の強化	消防防災拠点の整備	B
	消防防災体制の強化	B
	大規模災害への対応強化	B
	指令管制業務の充実強化	A

基本目標	事業	評価
【基本目標3】 市民生活に安心感を与えるための 救急医療体制 の推進	救急体制の充実整備	B
	救急と医療の連携	B
	予防救急	B
【基本目標4】 ICT を活用した スマートな消防行政 の構築	スマート消防	B
【基本目標5】 すべての職員が活躍 できる 魅力あふれる職場環境 の整備	職場環境の整備	A

前期事業計画の総括

前期事業計画の取り組みを評価項目ごとに整理すると、A評価が4事業、B評価が9事業と一定の成果を上げました。後期事業計画の推進にあたってはこの評価結果を踏まえ、継続して取組を進めていく事業や改善すべき事業を検討し、めざすまちの姿である安全・安心を実感できるまち～とものつくる～の実現に向けて施策を展開していく必要があります。

第5次将来構想計画 前期事業計画総括

基本目標 1

市民・事業所の防火・防災意識の高揚と自助・共助の醸成

これまでの成果

- ◎ 地域防災力強化のために、各世代における防災教育を充実させるとともに、消防団との合同訓練では従来の訓練より**実践的な訓練を実施**した。
- ◎ 住宅火災による死者を軽減するために、令和7年度に住宅用火災警報器の設置・維持管理の促進、感震ブレーカーの認知度アップを重点項目に**全庁的な住宅防火・防災対策を実施**した。
- ◎ 高齢者の住宅防火対策として、千成ヤクルト販売株式会社と連携して**住宅用火災警報器設置促進講習会**を実施した。
- ◎ 住宅用火災警報器の設置率が低い地域に**共同購入を推進**し、キャンペーン等の啓発活動にて希望者への**取付支援を実施**した。
- ◎ 火災原因調査の結果を全国消防技術者会議等で発表し、消防庁長官表彰を受賞した。
- ◎ 令和7年6月に発生したリチウムイオンバッテリーの火災において、当該製品の鑑識を通じてインターネット通販サイトでの販売中止につなげた。
- ◎ 防火管理者の知識の向上と自主防火管理体制の強化を図るために、火災予防運動期間中に**防火管理研修**を実施した。
- ◎ **消防法令違反是正に重点を置いた査察**を展開し、是正状況の把握及び違反是正の推進を図った。
- ◎ 令和7年10月から危険物施設に対する**自主チェック制度の運用を開始**した。

積み残し（継続）課題

- 自主防災訓練の集客数は増加したが、**若年層の参加者増加につながったとはいえず**、後期事業計画においても継続して取り組んでいく。
- **住宅用火災警報器の設置率**が前期事業KPIの74.0%を達成しなかった。引き続き、設置率が低い地域への**共同購入、高齢者宅を中心とした取付支援**を推進するとともに、より効果的な広報活動を展開する。
- **感震ブレーカーの認知度アップ**は後期事業計画における重点事業である。**第5次将来構想計画事業推進委員会（防火・防災対策検討委員会）**で感震ブレーカーの普及促進に向けた組織の方針について検討し、各種取組を進めていく。
- **危険物施設に対する自主チェック実施率**は前期事業KPIの25.0%を達成したが、制度を充実させるために、自主チェックの対象となる施設やチェック内容の見直しなどを検討する。

事業	評価
地域防災力の強化	B
住宅防火安全対策	B
防火対象物の安全対策	A
危険物施設の自主保安体制構築	A

第5次将来構想計画 前期事業計画総括

基本目標2

あらゆる災害から市民を守るための消防防災体制の強化

これまでの成果

- ◎ 令和5年度に本消防組合の署所や車両の配置状況から運用効果を分析するために**消防力適正配置調査・研究**を行った。
- ◎ 令和7年中の消防ポンプ車が出動してから現場に到着するまでの所要時間は4.16分で**5分消防体制**が維持されている。
- ◎ **枚方消防署建て替え**に向けて、令和6年3月、「**枚方消防署新庁舎基本構想**」を策定。
- ◎ **枚方消防署建て替え**に向けて、令和6年8月以降、旧中宮北小学校跡地での消防署建て替えと移転後の枚方市駅周辺の消防・救急需要について関係機関と継続的に協議するとともに、地域住民への説明などを実施。
- ◎ **署所の整備**のために、令和7年4月、**消防庁舎マネジメント推進本部**を設置、署所ごとの現状と課題を整理し、署所の長寿寿命化について検討。令和8年3月、計画的に署所を保全していくための計画である「**枚方寝屋川消防組合個別施設計画**」を策定。
- ◎ **車両更新計画**に基づき、令和5年度にタンク車3台、救急車3台、令和6年度に救助工作車1台、救急車1台、令和7年度に救急車1台、指揮車1台を更新した。令和7年度更新予定のタンク車2台、本部指揮支援車の納期が遅延している。
- ◎ 交通救助や建物等事故への初動活動を充実させ、被害を最小限に抑えることを目的に、令和6年度から、**中宮出張所消防小隊に救助事案への出動及び救助活動等の任務を追加**した。
- ◎ 寝屋川市域で水難事故が発生した場合に、水難支援隊として枚方市域から枚方消防小隊が出動することによる管内の不在時間を解消するために、令和7年10月に**寝屋川消防署へ水難救助活動を支援する小隊を設置**した。
- ◎ 大規模災害発生時の連携強化を図るため、大阪広域生コンクリート協同組合とピッコロ社と**協定を締結**した。
- ◎ 令和7年度に**消防情報システム整備事業が完了**。新システムでは**災害情報共有システム、映像通報システム（live119）、可搬型指令台、延焼シミュレーションシステム**等を導入した。

事業	評価
消防防災拠点の整備	B
消防防災体制の強化	B
大規模災害への対応強化	B
指令管制業務の充実強化	A

積み残し（継続）課題

- 枚方消防署建て替えに向けて、令和8年度に民間活力導入可能性調査を委託するとともに、枚方消防署新庁舎基本計画を策定する。後期事業計画期間中（令和8年度～令和12年度）の新庁舎整備を目指す。
- 「**枚方寝屋川消防組合個別施設計画**」に基づき、計画的に署所の修繕を実施する。
- 「**枚方寝屋川消防組合車両更新計画**」に基づき、主力車両の更新を切れ目なく行う。
- 現場対応能力向上のために、**第5次将来構想計画事業推進委員会（消防防災体制検討委員会）**で消防救助体制の再整備、指揮体制や安全管理体制などの司令塔機能の充実強化について検討する。
- 令和7年に策定した枚方寝屋川消防組合業務継続計画に基づき、業務継続のための執務環境の確保を進める。
- 都市構造の変化やインフラ施設老朽化などの影響による活動環境の変化に対応するとともに、効率的かつ効果的な現場活動を実現するため、**第5次将来構想計画事業推進委員会（新しい消防技術検討委員会）**で新たな消防戦術の導入について検討する。

第5次将来構想計画 前期事業計画総括

基本目標3

市民生活に安心感を与えるための救急医療体制の推進

これまでの成果

- ◎ 令和5年度に本消防組合の署所や車両の配置状況から運用効果を分析するために**消防力適正配置調査・研究**を行った。
- ◎ 令和6年4月から**本部機動救急隊の運用を開始**し、本部近隣署所の現場到着時間短縮につながった。
- ◎ 令和6年度から**患者等搬送乗務員基礎講習**を開始。
- ◎ 救命講習を充実させるために、中学校に対する救命入門コース、小学生に対する救命入門コースジュニアの講習を実施。
- ◎ 令和7年度に**消防情報システム整備事業が完了**。応急手当の動画を指令センターから通報者のスマートフォンに送信するシステム（live119）を導入した。
- ◎ 令和7年度にコロナ禍の影響で一時停止していた「**勇気こころのカード**」を救急活動協力者に対して配布する取り組みを再開し、バイスタンダーフォロー体制を充実させた。
- ◎ 管内の救急受入れの主となる**医療機関と連携会議を開催**し、円滑な救急搬送につなげることができた。
- ◎ 本部機動救急隊及び各署指導救命士による同乗者実習を実施し、指導体制及び教育体制を強化した。
- ◎ 北河内地域救急MC協議会で「**人生の最終段階にあり心肺蘇生等を望まない心肺停止傷病者への救急隊の標準的活動要領**」の承認を受け、令和8年度からの本格運用に向けて体制整備が完了した。

積み残し（継続）課題

- 令和5年度に消防力適正配置調査・研究を実施したが中宮出張所への救急隊の増隊は実現しなかった。後期事業計画においても、高い水準で推移する救急需要に適切に対応するために、全署所への救急隊配備や適正な配置に向けて取り組む。
- ドクターカーの24時間365日運用の実現に向けて検討したが、病院側から働き方改革を推進している関係上、運用時間拡大に向けた人員を確保することが困難と回答があったため、現行の運用時間を維持することとなる。
- 「映像通報システム」で入手した映像通報の情報を、現場活動中の隊員と共有する取り組みなどの検討を行う。
- 救急需要対策やドクターカー運用体制見直し、救急救命士のあり方については、**第5次将来構想計画事業推進委員会（救急医療体制推進委員会）**で検討する。
- 予防救急の取り組みは、これまでの広報活動に加え、地域との連携によって高齢者における家庭内事故防止の普及啓発を行う。

事業	評価
救急体制の充実整備	B
救急と医療の連携	B
予防救急	B

第5次将来構想計画 前期事業計画総括

基本目標4

ICTを活用したスマートな消防行政の構築

事業	評価
スマート消防	B

これまでの成果

- ◎ 令和5年度に「DX戦略」を策定した。同戦略に基づき、電子申請やe-ラーニングの体制の整備、モバイル端末を活用した予防業務の推進、オンライン会議環境の整備などを実現した。
- ◎ 令和7年度に**消防情報システム整備事業が完了**。
- ◎ 令和5年度以降、毎年度「**広報戦略**」を策定している。SNSを中心に防火・防災・救急に関する情報を継続的に発信。

積み残し（継続）課題

- 導入したDXツールの活用状況や時間外勤務の削減などの効果を検証したうえで、新たな戦略を策定する。
- DX推進本部を中心として、**AI利活用、デジタル人材育成・確保、DX現場活用**について検討する。
- 広報戦略で組織の方針を明確にするとともに、広報戦略会議で消防組合のファンを増やす取り組みを検討する。

基本目標5

すべての職員が活躍できる魅力あふれる職場環境の整備

事業	評価
職場環境の整備	A

これまでの成果

- ◎ **職員満足度**については、令和6年度、7年度と2年続けて**80%以上を達成**した。
- ◎ 令和7年度に明和出張所の環境を整備し、女性職員が交替制勤務可能な施設を増加させた。
- ◎ 署所の仮眠室個室化、トイレ洋式化・乾式化など計画的に整備するために、「**職場環境整備計画**」を策定した。
- ◎ 休暇の取得促進の働きかけを行った。また、男性職員が育児休業を取得しやすい職場風土が形成されつつある。
- ◎ 令和6年度から職員の課題発見や創意工夫を奨励し、職員一人ひとりが組織の方針や方向性について考えるための制度（**全職員提案審査制度**）の運用を開始した。
- ◎ 令和5年度に「**枚方寝屋川消防組合人材育成基本方針**」を策定した。
- ◎ 令和7年度から新たな「**人事評価制度**」の運用を開始。人事評価の実効性と納得性がより高い制度となるよう抜本的に見直した。

積み残し（継続）課題

- 女性環境整備については目標の50%に届かなかったが、後期事業計画期間中に目標達成に向けて取り組んでいく。
- テレワークやフレックスタイム制度導入は実現しなかった。多様な働き方の実現のために、後期事業計画期間に取り組んでいく。
- 組織の魅力を発信し、競争優位性を高めるための取り組みを**第5次将来構想計画事業推進委員会（魅力創造委員会）**で検討する。